

生涯学習支援事業報告

事業の名称	東北大学オープンカレッジ 「杜のまなびや」	事業代表者	野口 和人
目的	地域社会に対する貢献の一環として、また、インクルーシブ教育の発信としてオープンカレッジを位置づけ、知的障害者の生涯学習にかかわる支援を行う。また、受講生・企画運営スタッフ・講師が「学び」の意味を再考する場とする。		
対象者	知的障害のある学外受講生 宮城県内の大学・大学院に在籍する学生		
内容	<p>本事業は知的障害者の生涯学習を支援する取り組みであり、知的障害者の学習ニーズを探りつつ、大学の持つ専門性を活かした学習プログラムの提供と援助方略を模索すること、そして受講生（知的障害者および大学生）の意識変容を探ることを目的としている（川住, 2007）。</p> <p>しかしながら、新型コロナ・ウィルス感染症の感染が収束せず、感染拡大の可能性を常に考慮せねばならない状況下において、令和 3 年度は「杜のまなびや」の開催を断念せざるを得なかった。</p> <p>令和 3 年度における当事業と関連するトピックとしては、以下のものを挙げるができる。</p> <p>①令和 2 年度末に調査票及びヒアリングによる調査に協力した「生涯学習を通じた共生社会の実現に関する調査研究：大学等が開講する主に知的障害者を対象とした生涯学習プログラムに関する調査」(文部科学省)の報告書が完成し、令和 3 年 6 月末に文部科学省 HP 上で公開されたこと (https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/mext_01580.html)</p> <p>②知的障害のある方たちの生涯学習に関して、仙台市生涯学習支援センター職員との意見交換を 9 月末に行ったこと</p> <p>③2021 年度プロジェクト研究(公募)「東北大学大学院教育学研究科における SDGs 推進取り組みに関する事例研究」(研究代表者：劉 靖)のインタビュー調査に、事業代表である野口とスタッフである大黒空(博士前期課程)が協力したこと</p>		

	<p>次年度は、自治体との連携も視野に入れつつ、実施体制の見直しを図り、「杜のまなびや」の開催を実現したいと考えている。</p>
<p>ス タ ッ フ</p>	<p>野口 和人（東北大学大学院教育学研究科教授） 大黒 空（東北大学大学院教育学研究科博士前期課程）</p>